2010.5.4 (thu) —12 (wed)
阿部真士
「Snap」

2010.5.14 (fri) —23 (sun)
山内道雄
「東京 2009.12.」

2010.5.25 (tue) —6.2 (wed)
星玄人
「Hoshi haruto street photo exhibition 4 “ Osaka ”」

2010.6.4 (fri) —13 (sun)
原美樹子
「Blind Letter」

2010.6.15 (tue) —23 (wed)
川島紀良
「Zephyros」

写真機が世界の隅々にまで携帯され、ポートレイトは過剰に蔓延している。JPEGのなかには撮影時間、位置情報といったメタデータが撮影者の意向を問わず記録されていく。何が欠けているのか。僕らの見たい世界は検索エンジンの走査や画像の解析からは発見することができない。人間の顔は普遍だ。かつて写真機は肖像画家の特権を剥ぎ、解体し、人心を瞬く間に満たしたはずだった。今、ストリートに曝されたはずの顔には気休めのぼかしが加えられ、枯渇したこの島国の記憶と想像力のなかで、僕らはいつだって他人の目線を読み、一方で遮断し、商標登録済みの顔で埋め尽くされた広告のコンコースをすれすれの肩越しにそそくさと歩いている。顔を直視してレンズを通過した光をただ、そのまま見たい。そして、世界はそこにある。5つの連続写真展。

サードディストリクトギャラリーは「写真」にもう一度真摯に向き合ってみたいと考えています。③

# そのままのポートレイトを見たい。(3rddg2010初夏の企画)

3 third district gallery

**サードディストリクトギャラリー**
160-0022 東京都新宿区新宿3-8-9新宿Qビル4F
tel&fax 03-5269-5230


open 13:00−20:00　会期中無休／入場無料





info@3rddg.com　http://www.3rddg.com

## 2010.5.4—12
## 阿部真士「Snap」

パンチを食らって思わず笑った。昨日すれ違ったような街の光景。だのにシャッターの渦に堕とされ光と影に焼きつけられ潔く突きつけられるとワクワクする。これって愛という名の犯罪だ。罪な人です。　**大石三知子**（脚本家）

1983 年 埼玉県生まれ。'08 年東京ビジュアルアーツ卒業。同年、写真展「GOOD TIME」ギャラリー街道（東京）

## 2010.5.25—6.2
## 星玄人「Hoshi haruto street photo exhibition 4 “Osaka”」

1970 年 神奈川県生まれ。'00 年現代写真研究所卒業。'07 年 写真集『街の火』（ガレリアQ刊）。'09 年 3rddg の立ち上げ。

## 2010.6.15—23
## 川島紀良「Zephyros」

落語「野ざらし」のまくらに出てくる、釣りをしている人を見る人を見る人、になっていた。風に誘われ、どのような顔をし、シャッターを押していたのか。野ざらし探求。Zephyros（ゼピュロス）はギリシャ神話の西風の神。地中海人にとって、西風は実りをもたらす春風。

1972 年 東京都生まれ。日本大学芸術学部文芸学科卒業。東京綜合写真専門学校 第二学科中退。現在フリーランスフォトグラファー。

3 third district gallery
サードディストリクトギャラリー
info@3rddg.com　http://www.3rddg.com

## 2010.5.14—23
## 山内道雄「東京 2009.12.」

基本的に変わらぬ人の表情や仕草、光に比べ、どんどん変化してゆくファッションや街の様子には戸惑いを覚えるほどである。人が多く写っているのは私の癖で、私は大ていの人智よりも現実の方をより信じている。体で、細胞を刺激してくるものを受け止める気持ちでシャッターを切る。

（写真集『TOKYO』蒼穹舎刊　後記より）

1950 年 愛知県西三河（現、豊田市）生まれ。早稲田大学、東京写真専門学校（現、東京ビジュアルアーツ）卒業。'82 年 自主ギャラリーで写真発表を行う。以後フリー。東京都写真美術館所蔵、伊奈信男賞、写真展多数。写真集に '92『街』『人へ』、'97『HONGKONG』、'05『HOLIDAY』、'08『TOKYO』他。

## 2010.6.4—13
## 原美樹子「Blind Letter」

忘れかけの記憶というか、消えていく夢というか。そういったものを写し取ることができたなら、それは、原美樹子さんの写真にとても似ているのではないか、と思いました。近くで見ているのに、遠い印象。鮮明だけど、おぼろな光景。確かにリアルに在ったことが、何か、幻を見せられているようで、そわそわしました。この不思議な実在感。やはり、失われる瞬間が、失われつつ凝固したと考えるしかない。写真の中の人々がみな、どことなく虚ろに見えるのも、ある感情が湧きおこり枯れていった、余韻なのかもしれません。

**七里圭**（映画監督・脚本家）

1967 年 富山県生まれ、川崎在住。慶應義塾大学、東京綜合写真専門学校卒業。写真展　'96「Is As It」ル・デコ、'98「Agnus Dei」銀座ニコン、'01「うつろの製法」コニカ／The Third Gallery Aya、'04「発語の周縁」ガーディアン・ガーデン、'07「Blind Letter」（NY）。グループ展　'97 年「L'INCONSCIENCE ET LES REGARDS」（アルル）、'98「写真の仕草・展」SOKO Gallery、'99「プライベートルーム 2」水戸芸、'03「JAPAN – Contemporary Ceramics and Photography」（独）、'04「平遙国際写真フェスティバル」（中国）、'06 年「私のいる場所—ゼロ年代の写真論」都写美、'07 年「A PRIVATE HISTORY〔JAPAN〕」（コペンハーゲン）、他。写真集　'05『hysteric Thirteen Hara Mikiko』（ヒステリックグラマー）出版。